

# 平成 24 年度 学校評価（自己評価）

## I. はじめに

学校における最も重要な項目は、園児の育ちと、その為の教師力の向上にあると考える。それ故、平成 20 年度は、大きくはその 2 点に絞り、学校評価を行った。

平成 21 年度は、全保護者にアンケートを実施し、その結果を基に学校評価を行った。

平成 22 年度は、健康管理などの保健衛生面・園児の基礎体力の養成・安全対策 等の項目について学校評価を行った。

平成 23 年度は、授業参観と誕生会と個人懇談会・子育て支援（教育講演、預かり保育、就園前 2 歳児の芽生え教室）・お母さんのサークル活動 について、学校評価を行った。

本平成 24 年度は、先生の指導力の向上・力量 up のために、本園が取り組んでいる 研究授業の一点に絞って学校評価を行なう。この項目は、平成 20 年度にも行なったが、より具体的にその詳細にまで踏み込んでいきたく考える。

## II. 本年度の学校評価の項目として、研究授業を選んだ理由

健康管理や安全対策など、学校として注意を払うべき基本的な項目があるのは当然として、学校（幼稚園）評価の本質は、子供の育ち そしてその為の 先生の質すなわち教師力を高めるための具体策 の 2 点に絞られると考える。この 2 点をさらに突き詰めれば、子供の育ちの為には、まず先に、教師力を高める（先生の育ち・力量 up） こと がなければならない。

平成 20 年度の学校評価でも扱ったが、教師力を高めるには色々な手立てがあるが、安松幼稚園においては、研究授業こそ教師力 up の決め手であり、本年度の学校評価の項目とした次第である。

※ 平成 24 年度には、本園の研究授業に、●府・私学課の方の参観（平成 24 年 11 月 15 日）

●泉佐野市長の参観（平成 25 年 2 月 14 日） があり、ミニ公開研究授業となった。

このことも、研究授業を本年の学校評価の項目にする動機となったことを付記する。

## III. 本園の教育目標の確認

優しく そして たくましく （健やかに 豊かに 賢く）

「ここは一発やるぞ！！」という強い精神力と共に、優しい心を育てたい。

● 知識の伝達のみでなく、次の世代に 日本の文化を伝え人間としての心を育てたい。

具体的には、次のような 人間としての骨太な面を育てたく思っている。

- ・ 基本的な生活習慣を身につける
- ・ 「ありがとうございます」「おはようございます」などの挨拶がスーッと出る
- ・ お年寄りや小さい子に、ごく自然に優しく接することが出来る
- ・ 周りの人と会話ができ、大勢の中でも自分の意見を発表できる
- ・ やる気満々である
- ・ 我慢することができ、物事に対する耐性がある
- ・ 「やる時はやる 遊ぶ時は遊ぶ」などのけじめ・切り替えが出来る
- ・ 静と動、善と悪のけじめをつけることが出来る

● 個々の領域の目標については省略する。

#### IV. 安松幼稚園の研究授業の確認

##### 【1】園内研究授業

安松幼稚園では、年に20回前後の研究授業を行っています。

研究授業とは、各先生が教材を研究して独自の教案をたて、園長先生をはじめすべての先生に授業参観をしてもらい、その後の反省会で色々と批評を受けるという、腕を研ぐ機会の一つです。

毎年、全員の先生にまわり、新任には2回の研究授業を義務付けています。

当園の理事長がかつて勤務していた研究を主目的とする大阪教育大学附属高校においてさえ、研究授業がその教科に回ってくるのは3年に一度で、例えば数学科では10名の先生がいましたが、公開で研究授業をする先生は3名程度でしたので、個人にとっては、10年に一度ぐらいしか研究授業は回ってきません。

毎年研究授業を課することは、実はとても厳しいことなのです。

もっとも平素の授業における毎日の教案作成では、園長先生や主任の先生が、学年の先生全員と「ああだ こうだ」と話し合い、個々のクラスで凹凸が出ないように調整します。

しかし研究授業では、担当の先生が自分一人で教材を研究し開発せねばなりません。そして授業。その後の風通しの良い反省会。それは実に厳しいものです。

反省会での批評の観点は、大きくは

##### ●授業前の教材研究

##### ●授業そのもの

の二点となりますが、もう少し具体的に挙げてみましょう。

(a)教室（運動場やホール）における環境の整え方

(b)教材が授業前に十分に研究されたものであり、子供の実態・発達段階にあっているかどうか

(c)先生からの一方的なしゃべりが多すぎなかったかどうか。つまり押しつけではなく、会話を通じて子供から色々と引き出されているかどうか

（特に体育や芸術などでは、先生の説明ばかりではなく、子供に実技をさせる時間を充分にとっているか）

(d)全体指導、グループ指導、個人指導のバランスがとれていたかどうか。そして全員の目を引きつけ、見落とした子供はなかったかどうか

(e)子供の発言を落とさずに拾うことが出来、その時の子供の心を受けとめることが出来たかどうか

(f)先生の声の大きさや色はどうであったか。先生の表情を含め、先生の熱い想いが伝わる授業であったかどうか

(g)子供がふざけたり注意力が薄れたときに、的確な指導を入れたかどうか

(h)教案に沿って授業が進められるのが基本ではあるが、子供の発言が教案とは違う方向に進みそれに価値があった場合、教案に固執せずに柔軟に対応できたかどうか

(i)その他 等々。

批評は常に具体的にということが大前提であり、とても大事なことです。批評自身が的を射ない場合もあり、即座にその批評に対して「異議あり。その批評は、これこれの理由でおかしい。授業者の方が正しい。」との声が上がります。

時には、「この様な授業をしているなら、月謝をもらって申し訳ないと思え。自由に運動場で遊ばせている方が、子供にとって値打ちがあろう」などの手厳しい言葉が、その理由を添えて具体的に指摘されます。

安松幼稚園の先生方は、この様な試練を乗り越えて成長していくのです。

私は、企業が一流であるかどうかは、企業の質を高める方策として、企業内研修を身内のスタッフで持てるかが鍵であると思っています。安松幼稚園においては、多くの先生に批評眼が育ってきていることを嬉しく思っています。

（付記：多くの研究授業を参観することにより、素晴らしい授業も、未熟な授業も観ることになります。そしてこれらが共に、糧となるのです）

## 【Ⅱ】研究授業の前提である人間力

研究授業の大切さは言うまでもありませんが、研究授業が有意義となるには、その後の風通しの良い率直な反省会が不可欠となります。それがないと研究授業も、時間の無駄と断言していいでしょう。しかしながら世の多くの研究授業では、その後の反省会ではお互いの遠慮があり、辛らつな批評を避けて通る風潮があります。

率直な批評を受けても崩れない人間関係・お互いの信頼関係がなければ、風通しの良い反省会はなかなか持てないのです。

安松幼稚園では、教師力以前に、先生の人として生きていく方向・仕事に対する姿勢・注意された時に素直に受けとめる等の人間力を高めることを、基本に第一に考えています。自分の間違いを指摘されたり批判を受けたとしても、お互いに崩れない人間関係・信頼関係が安松幼稚園の先生の間にはあるのです。

これが研究授業が有意義となるかどうかの大前提となります。

## V. 安松幼稚園の研究授業に関する評価

以上が、安松幼稚園が教師力を高める手立ての一つとして重要視している、研究授業についてのまとめである。

全ての先生方と共に、その検証作業を行なったところ、全ての先生が（3年以上在職している先生方は特に強く）、「この研究授業を通して私達は育てられました。」との自己評価で一致した。

最後に、客観性を得るために、数年前の保護者のアンケート結果をここに添えたい。

全保護者（約 270 家庭）へ無記名のアンケートをとり、5段階で答えてもらったのですが、その中に次のような項目がありました。

- 理事長・園長には、先生を育てる力がある

評価 5 は 86% 4 は 11.4%

- 先生のレベルは総合的に判断して高い

評価 5 は 86.4% 4 は 11.5% でした。

全く賛成の場合は評価 5、ほとんど賛成の場合は評価 4 とのことでしたので、97%以上の方に「安松幼稚園の先生は、高いレベルにまで育っている」と判断して頂いたこととなります。

保護者のアンケート結果は、「安松幼稚園で行なっている研究授業は、教師力を高めるに非常に有効である」という自己評価を裏打ち補強しているものと考えます。

## VI. 最後に

幼稚園は子供が初めて出会う学校ですが、安松幼稚園では、学校について次のように考えています。

学校は教師力で決まる

教師力とは先生の熱意と指導力

そしてこれこそ、安松幼稚園の依って立つところであり誇りでもありますが、その教師力を高めるに、研究授業が大きな役割を果たしていると、ここに自己評価するものです。

これら 平成 24 年度 学校評価（自己評価）を、学校関係者委員会に提出し、学校関係者の評価を得たいと考えている。

- なお
- ・食事指導
  - ・遠足 お楽しみ鍛錬登山 などの園外保育
  - ・色々な行事
  - ・異なる学年や入園前の芽生えさんとの交流
  - ・特別支援教育

等に関する評価は、次年度以降と致します。

# 平成 24 年度 学校評価（学校関係者評価）

## I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された本 24 年度の学校評価（自己評価）は、平成 20 年度における園児の育ちと、その為の教師力の向上と深く関わるものと考えられます。

園児の育ちのためには、先に教師力の向上がなくてはならない。そして教師力の向上のためには幾つかの方策・手立てがあると思われませんが、本年の学校評価（自己評価）は、その中の研究授業の一点に絞り込まれたものであります。

そしてこの項目は、学校である限り定期的にチェック（自己評価）されるべきであり、自己評価の中で最も重要な項目であると、私達は考えています。それ故、4 年ぶりに教師力の向上すなわち先生の育て方について具体的に踏み込まれた今年の学校評価（自己評価）は、その項目を取り上げたというだけでも、価値があり評価されるべきだということで、私達の考えは一致しました。

学校関係者委員会としての下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。

## II. 自己評価にある IV. 安松幼稚園の研究授業の確認 の中の

### 【I】園内研究授業 と 【II】研究授業の前提である人間力 の検証

自己評価の記載通りだと、実感しています。

単に教育目標として掲げられているだけでなく、教育の中で実践され、目標に沿った成果を上げて下さっていると感じています。

また地域の小学校においても、安松幼稚園からの入学生は一味も二味も違うということも、先生からもよく耳にします。

とくに、研究授業で気をつけるべき項目 ●授業前の教材研究 ●授業そのもの

そして具体的にあげられている (a) から(i)の項目 を検証したとき、その内容に感服致しました。

それは、安松幼稚園の年 20 回の研究授業を中心とした園内研修の充実・厳しさが、安松幼稚園の先生方のレベルの高さに直結していると高く評価致します。

## III. 上記 II の傍証

### 傍証① 大阪府内の幼稚園を対象とする公開研究授業

(200 名の先生と大阪府私学課からも 2 名の方が参加)

自己評価では詳しく述べられていませんでしたが、安松幼稚園では公開授業（公開研究授業）も随時されています。年 20 回以上の研究授業をしていますので、これを公開すれば、即、公開授業となります。

平成 19 年には私の子供が在籍し、その当時 4 役の一人であったであった私は、2007 年 10 月 24 日大阪府の幼稚園を対象にした公開授業と、その後の反省会を見学する機会がありました。大阪府私学課の課長・岡本さん、課長補佐の榎下さんも参加されていました。

反省会でのホールは満席で、約 200 名ぐらいの先生が参加されていましたが、その日の反省会は、安松幼稚園で日常行っている反省会と同じスタイルで進められました。

そしてその後、次のような話を聞きました。

その日の夜、安松幼稚園の奥野先生に他園に勤めている友人から電話があり、次のような会話があったそうです。「私は安松幼稚園では、よう働かんわ」

「どうして？」

「あんなにはっきりと、授業のここがよかった。ここがまずかったと言われるのに耐えられへんわ」

「子供のためやんか。また批評してくれる先生も、相手の先生の教師力が上がるようにという気持ちから言ってくれてるんやから、ありがたいことやんか」

「うちの幼稚園では、人のことを言うと気まずくなるねん。だから思っても言えへんねん」等々の会話があったそうです。

研究授業の大切さと共に、教師力以前に、人間力が大切ということをつくづく感じさせられました。

## 傍証② ミニ公開研究授業

(大阪府私学課から2名の方と元大阪教育大学音楽科の諸石先生が参加)

私は、現在の育友会の役員です。

4役の仕事で園にちょこちょこ来るのですが、研究授業の日の時などは、理事長先生から「よかったら見学されてもいいですよ。」としばしば言ってもらい、4~5回参観したことがあります。

まさに自己評価に書かれている通りのことが実践され、私達の目の前で展開されました。

傍証①にあるように、大阪府私学課では、私立幼稚園そのものを知り学ぶために、以前から安松幼稚園の授業を参観に来られることがありました。

本年度は平成24年11月15日に、課長補佐の里村さんと副主査の濱野さんが、研究授業の参観に来られました。年長さんの歓迎の歌を聞かれた後、年少さんの音楽と年中さんの俳句指導を参観されました。

ここからは理事長先生からお聞きしたことです。

年少の音楽の授業が始まった2,3分後に、「あの先生は音楽専門の先生ですか？」との質問が府の方からあり、理事長先生は「幼稚園免許のある、ごく普通の先生ですよ。安松幼稚園での研究授業や研修により、ここまで育ちました。」と応えられたそうです。また一緒に参観された元大阪教育大学附属天王寺の音楽科の諸石先生からも「感動した。音楽専門の先生でもここまでは出来ない。」と、激賞を頂いたそうです。

また年中の俳句指導も参観頂きましたが、本物の大根を使っての指導に、観ている私達も思わず顔がほころびました。

そしてその後の率直な反省会にも是非参加したいということで、府の方にも参加頂きました。

後日、理事長先生が府の方とお会いしたときに、濱野さんから「私学課に異動があった時は、府の職員を勉強のため、今後とも安松幼稚園に参観に行かせたいという話が出ています。幼稚園教育そのものを学ぶと共に、先生方の仕事に対する姿勢からも学ぶものも多くあります。今後ともよろしくお願いします」との話があり「常時研究授業をやっていきますので、いつでもお越し下さい」と応じられたそうです。また府の方は、「安松幼稚園の子供達の集中力とそこまで指導できる先生のレベル」に感嘆されていたそうです。

私達の実験の経験、またこのような話を聞くにつけ、安松幼稚園の園内研修を高く評価すると共に、自己評価を適切と考える傍証となると考え、ここに記載致しました。

## 傍証③ ミニ公開研究授業

(泉佐野市長の参加)

以下は、学校関係者評価の会に、書記として参加された居島先生からお聞きしたことです。

千代松泉佐野市長から「幼稚園での君が代の指導を見せて欲しい」との話があり、平成25年2月14日に、3歳児の授業をご覧頂きました。

“さざれ石(砂のように小さな細かい石)”や“巖(大きな石もしくは岩)”そして“こけ”を用意し、3歳児でもその意味が分かるように、そして日本の国柄が理解でき愛情の持てる授業展開でした。参観者一同の感動を呼び、私も含め涙した先生が多くいたように思います。

## 傍証④ 先生の教師力を高めるための色々な試み

安松幼稚園の研究授業については、私達の見聞きした経験を元に、あらまし上記の通り検証致しました。

この機会に、研究授業以外の色々な取り組みについて、私達が見聞きしたことについても触れたい思い

ます。それは安松幼稚園の園風を知ることであり、個々の項目を評価する以前に、その土台・根っこを知ることにつながると思います。土台・根っこを知ることとはとても重要と思いましたが、ここに付記します。(注：役員の仕事で園に出向いたとき見聞きしたことや、多くの先生方からお聞きしたことです。)

#### ●毎日の情報交換と反省会

毎日、約1時間30分以上をかけて、子供に関する情報交換と、先生自身の反省会を持っています。子供の情報に関しては、情報交換だけにとどまらず、子供への声かけの仕方・子供との触れ合い・子供の今の心や体の様子をキャッチ出来たかどうかまで話し合い、突っ込みあいます。また今日の授業でうまくいった、またうまくいかなかったなどの反省が、本人の口から出てきます。安松幼稚園の先生は、結構打たれ強い人が多いです。いや、打たれ強く育ってきているといった方が正確でしょうか。(笑) (理事長先生や藤本先生、居島先生などの話をまとめました。)

#### ●教室は出入り自由

先生方は、研究授業の参観だけではなく、日常の毎日の授業においても、自分にプラスとなると思えば、自由に参観が可能な体制をとっています。(そういう風景をよく目にしました。)

#### ●読書そしてスピーチ,討論

夏休みなどには、各先生が自分で選んだ本を読み、9月にそれぞれスピーチをし、すべての先生で討論(意見交換)されています。(何かの用事で職員室に入った時の一風景でした。)

#### ●お泊まり研修会

みんなで食事をしながら和気藹々とした雰囲気の中で、人としての生きていく方向や仕事に対する熱い気持ちなどを語り合います。安松幼稚園の園風を、新任や二年目などの先生が一日でも早く共有できるようにと宿泊研修を行っています。(先生からお聞きしました。)

## IV. 最後に

理事長先生は、  
学校は教師力で決まる 教師力とは先生の熱意と指導力 それらが安松幼稚園の誇りと、よく言われます。

先生の指導力を向上させるに最も大きな効果のある研究授業を中心として記された自己評価でありましたが、私達は全員一致して自己評価を適切であると認めます。そして今後も、現在の安松幼稚園の有り様をぶれることなく貫いてほしいと存じます。